医療連携つつじ 2021年 2月 40号

東京山手メディカルセンター　〒169-0073 新宿区百人町3-22-1
総合医療相談室 ☎ 03-3364-0366　FAX 03-3365-5951　http://yamate.jcho.go.jp/

TOPIX

▶ 当院の新型コロナウイルス感染症対策の状況について／呼吸器内科部長　大河内 康実
▶ 医療連携登録施設のご紹介／竹田クリニック　院長　竹田 秀一
▶ 臨床検査科診療部の取り組み／臨床検査技師長　五十嵐 信之
▶ 当院での感染管理認定看護師の取り組み／看護師長　富谷 康子
▶ リウマチ膠原病外来のご案内と、新任のご挨拶／リウマチ膠原病科医師　三森 明夫
▶ 東京山手メディカルセンター 外来担当表

当院の新型コロナウイルス感染症対策の状況について

呼吸器内科部長　大河内 康実

このたび「連携つつじ」の場で皆様にご挨拶することとなりました第一呼吸器内科部長の大河内です。連携施設の先生がたには常日頃から当院をご贔屓いただき感謝申し上げます。

さて、私が JCHO 東京山手メディカルセンターの前身の社会保険中央総合病院に入職したのは 2006 年 4 月でした。その後 JCHO に組織改編されたのと同じ 2014 年から呼吸器内科部長を拝命しています。前任の部長で現在も当院の呼吸器内科を非常勤で支えている徳田均先生が院内感染対策委員長を担当していたこともあり、その任もそのまま引き継いでいます。今回は現在当院でも院内感染対策上の喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症（COVID–19）対策を中心に御報告したいと存じます。

振り返りますと、武漢への渡航歴のない COVID-19 の国内第 1 例は 2020 年 1 月でした。それに遅れて 2 月下旬から当院の新型コロナウイルス感染症対策会議が立ち上がりました。現在の委員構成は矢野院長、橋本副院長、長谷川看護部長、中村事務長を含む病院執行部、小林総務企画課長、渡邉医事課長、高澤院長補佐、感染対策専従看護師の富谷看護師長と感染対策委員長の私と同副委員長の伊地知部長で、ほぼ毎朝会議をして情報共有と意思決定が行われています。当初から病院執行部が対策に当たっているため、感染対策などの意思決定、患者さんや職員等への協力要請、都などの行政当局への対応などが迅速にできました。

当院は新宿地区の基幹病院の中では築年数が最も古く陰圧室を持っていないため、国内感染期初期は入院患者には対応せず、２月３月はクルーズ船や検疫所等への看護師、薬剤師、医師、事務員を派遣することで協力を行っていました COVID-19 患者が増加した 4 月から入院患者への診療も開始しました。また、新宿区新型コロナ検査スポットへ職員を派遣しました。現在は、ビニールで作成した隔壁で病棟を分離し専用病床を作成し、軽症から中等症までの患者さんを数名受け入れています。COVID-19 の入院患者の診療は 6 月までは各科の医師と呼吸器内科で担当していましたが、７月以降は呼吸器内科で担当しています。

院内感染対策では「院内にウイルスを持ち込まない」、「職員と患者さんがウイルスにうつらない、うつさない」を大目標に様々な対策を行ってきました。全職員と院内の外来患者さんと入院患者さんのマスク着用（ユニバーサルマスキング）、入院患者さんの外出制限・外泊制限、家族の面会の禁止・制限、職員の感染対策として体温測定などの自己健康管理、体調不良時の出勤停止と積極的な PCR 検査、宴会の制限、などを行っています。また、正面玄関にサーモグラフィーによる体温測定、手指消毒薬の設置を行い、ウイルスが無警戒に院内に入りこまないように対策を行っています。接触感染防止の観点から、患者さんが接触する場所

写真１　病院正面玄関に設置したサーモグラフィー

の清拭を職員が行っています。他にもまだありますが、全職員で感染対策に取り組んでいます。当院規模の一般病院としては先駆的な点として、新型コロナウイルスの PCR 検査（LAMP 法）を早期から導入したことがあります。５月末から外科手術例と上部消化管内視鏡検査前に PCR 検査の実施を開始し、８月から緊急入院患者を対象に広げ、９月末からは全入院患者に対して入院前または入院時に PCR 検査を実施しています。これらにより院内感染のリスクを下げ入院患者さんと職員を感染から守るように努めています。

これから冬にむけて気温と湿度が下がると通常の風邪と同様に、このウイルスの感染も拡大するという説があります。執筆時は感染者数が過去最高値を連日更新し患者は増加傾向となっています。どんなに対策をしてもリスクは０にならず、いつかは病院内で集団感染による大規模クラスターが発生するかもしれないと怖れつつも、腹をくくり日々対策していくしかないと考えています。

最後に呼吸器内科診療についてです。COVID-19 流行当初は、診断手段が保健所に依頼する PCR 検査しかなく、当院では呼吸器症状のある患者さんへの対応が十分出来ませんでした。連携施設の先生がたにご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。COVID-19 が否定できない患者さんは一般外来での診療ができないため、現在は救急外来で連携室長・総合診療科部長・救急科副部長・第二呼吸器内科部長の笠井部長が中心となり対応しています。

また、肺癌については、新宿区肺がん検診またはドック健診などからご紹介をいただき、御礼申し上げます。未診断の肺がん疑いの患者さんについて気管支鏡検査で診断の確定が出来ない場合は、放射線科に CT ガイド下生検の実施、または、呼吸器外科に診断および治療をかねて外科的肺生検をお願いしています。残念ながら、当院では放射線治療装置が現在稼働していないため、放射線治療が必要な症例については、放射線治療が実施できる施設にご紹介しています。しかし、肺癌を疑いどの施設へ紹介するか迷われる患者さんでも、まずは当院にご紹介いただければと存じます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

▲写真３　呼吸器内科のスタッフ

写真２　呼吸器内科カンファレンスの様子
ドアを開けて換気し、なるべく密にならないようにしています

竹田クリニック

内科・胃腸科・外科

院長　竹田 秀一

当院は、平成７年に大久保駅前で開業し（写真①②）、当時より、山手メディカルセンターの前身である、社会保険中央総合病院にお世話になっておりました。私は地元、大久保で生まれ育った事もあり、地域に密着した“赤ひげ”先生を念頭に、開業しました。風邪の診療、癌の診断から、小児科、整形外科、婦人科等、病気で困っている患者さんを受け付ける「なんでもかかりつけ医」となっています。従って、紹介する患者さんも、子供から、妊婦、老人、さらには韓国、中国、ネパール、ベトナムなどの外国人の患者さん、宗教上で治療の制限のある患者さん、ワクチン接種で熱がでてその後の接種をお願いする患者さんなど、多岐にわたっております。山手メディカルセンターには、後方支援はもちろんのこと、私自身や家族も、診察や入院をさせていただいております。

私は、武蔵高校を卒業後、千葉大学医学部に入学いたしました。大学在学中はラグビー部に所属しており、医学よりも部活一色の六年間でした。卒業後は東京女子医大、消化器外科に入局し、主に肝胆膵のがんの治療に従事していました。女子医大にて 10 年間、研鑽を積んだのち、35 歳の時に開業いたしました。開業してからの 25 年間は、長いようで短くもあり、開業当時に、赤ちゃんであった女の子が、現在では母親として、子供を連れてきてくれることをうれしく思っております。

また、私自身も男ばかりの四人の子に恵まれ、育てるのは、大変でした (患者さんと話しているとよく驚かれます　笑) が、現在は上の二人は医師になり、下二人も医学生として勉学に励んでおります。

私は開業した当時から、往診していましたが（写真③　当時は訪問診療という概念はありませんでした）、当初は、診察や緊急入院をお願いするのも、お忙しい先生と直接交渉するため、時間がかかることが多々ありました。脳梗塞で、麻痺が認めら

写真①　入り口

写真②　受付

写真③　往診時に利用するバイク

写真④　発熱外来時の装備

写真⑤

写真⑥　発熱外来室

れる患者さんなどは、失礼ながら、社会保険中央総合病院と他の病院の両方に電話をつなげ、救急車を呼びながら、患者さんのご自宅で搬送を待つこともありました。

そんな中に、山手メディカルセンターで総合医療相談室が立ち上がり、診療の相談・対応が、簡便・迅速になり、様々な患者さんが受診する当院にとりましては、感謝の極みとなりました。数年前には、救急科も設立され、笠井先生にご迷惑をかけながら、数々の救急の患者さんに対応していただいております。救急科の場合、必ず、当日に、治療の概要が、Fax で返信され、紹介した患者さんの診断･治療経過を、いち早く知ることができ、安心して診療に携われます。

当院にとりまして、山手メディカルセンターの利点は、何と言っても近くて、アクセスがよい病院になるのですが、さらに、勤務されている先生とも、顔の見える診療になることが多く、頼れる存在になります。夜間、救急での患者さんの対応時にも、知っている先生が電話口に出られ、患者さんの簡単な病状の説明で、スムーズに受け入れが決まるときには、本当に安堵いたします。

特に、消化器の先生方とは、当院が、胃腸科の事もあり、連携も長く、腹部の急性疾患や、癌の患者さんを、多数診ていただき、感謝に絶えません。また、年に数回、開催されます外科症例検討会は、我々開業医が紹介した患者さんについて、手術までの経過から、術式、病理所見、術後の問題点などを提示していただき、紹介後の患者さんの経緯が、手に取るようにわかる、大変貴重な場になっています。

今年の診療のトピックは、コロナ感染症に尽きるところがあり、現在は、落ち着きは見せながらも､日々コロナ対策に追われています｡流行がピークの頃は、“ 夜の街 ” の方々が、朝から押し寄せ、国立国際医療研究センターの PCR センターへの、一日の紹介件数は 20 人ほどになり、検査の陽性率が 40%を超える時期もありました（写真④)。7 月に医療センターでの PCR 検査が終了した後は、当院は、１階に、専用の入り口がある、診察の場所を設ける事ができ、唾液、鼻腔スワブによる新型コロナウイルスの、PCR 外来を立ち上げました（写真⑤⑥)。

現在は、一日 5 件前後の検査を試行し、陽性率は 10%程度に落ち着いていますが、これからはインフルエンザの流行シーズンとも重なり、どのように対処しようか、模索中の毎日です。

私も、今年還暦になり、孫にも恵まれている生活です。もう少し、現在の診療を続けようと思っておりますので、ご支援のほど、よろしくお願いします。

医療法人　秀紀会　竹田クリニック
〒 169 － 0074　東京都新宿区北新宿 3-1-21
TEL　03 － 3371 － 4114
FAX　03 － 3371 － 4118

臨床検査科診療部の取り組み

臨床検査技師長　五十嵐 信之

初めまして、今号はコロナ禍のなか遺伝子検査の取り組みについて臨床検査科診療部の紹介を行いたいと思います。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は , 2019 年 12 月初旬に中国の武漢市で第 1 例目の感染者が報告されてから、わずか数カ月ほどの間にパンデミックと言われる世界的な流行となりました。

2020 年 3 月、矢野院長より院内で PCR 検査を行ってほしいとの任をいただきました。検査部門の中でも遺伝子検査は専門性が非常に高い分野であります。当院は遺伝子検査室がなくその立ち上げからのスタートとなりました。途方に暮れる時間はなく、前に進むしかありません。まずは、機種の選定です。処理能力、煩雑性、試薬の供給性、機器代などなど色々と吟味し、LAMP 法を選択しました。矢野院長の決断にてどこよりも大変早く機器を導入することができました。そして 5/20 無事に院内 COVID-19 遺伝子 RNA 検査を開始することができました。そして、5/22 より橋本副院長新型コロナウイルス感染対策本部長の下、臨床検査技師による鼻咽頭からの検体採取が始まりました。対象者は、外科的手術、内視鏡的処置、分娩に伴う患者です。病院職員が安心して診療を行えるよう開始されました。初めは、プレハブ小屋や屋外でのパーテイションでしきったエリアで採取をしていましたので、風の強い日や気温の高い日などはとても大変でした。

現在は正面玄関脇で採取を行っておりますが、春先とは違い防護服やフェイスシールドを着用しての作業となるため暑さとの戦いです。看護部による保冷材の入った服や首に巻く物など色々と助けていただきました。6 月に入り検査試薬の供給も安定し、6/15 からはすべての検査を院内において実施しております。判定結果は当日もしくは翌日に報告させていただいております。（1 日平均 50 件程行っております。）

また、10 月からはすべての入院患者において検査を行い、9/17 からは増幅ユニットをもう 1 台新設し、計 2 台で至急患者検体にも迅速に対応していく体制を整え、患者と職員に安心と安全を提供することが可能となりました。

人員的には、検査者 1.5 名・準備等含め検体採取で 0.5 名程の仕事量が増えました。

検査者は今現在 5 名、検体採取は臨床検査技師全員で力を合わせて行っております。

人手を割けないために検査が行えないことがないよう、個々の負担をなるべく減らし検査担当者もこれからは増やしていく予定です。

ここで我が東京山手メディカルセンター臨床検査科診療部の組織構成を紹介します。

COVID-19RNA 遺伝子検査 LAMP 法
真中にあるのが、コントローラー、左右両端にあるのが、増幅ユニットです。

検査部長の三浦英明先生、病理部長の阿部佳子先生、検査専門医の飯田一能先生の下、臨床検査技師 38 名で構成されています。それぞれ専門性に優れ、数多くの資格を有しております。あまり紹介する機会がありませんのでほんの一部ではありますが、紹介したいと思います。（表 1）

東京山手メディカルセンター
臨床検査科診療部　（名）

認定血液検査技師		3
認定輸血検査技師		1
認定心電検査技師		6
認定病理検査技師		1
認定一般検査技師		1
認定認知症領域検査技師		1
認定臨床微生物検査技師		2
感染制御認定臨床微生物検査技師		2
日本睡眠学会認定技師		1
初級遺伝子分析科学認定士		1
糖尿病療法指導士		2
緊急臨床検査士		6
細胞検査士	国内	6
	国際	5
超音波検査士	消化器	8
	循環器	6
	体表	5
	泌尿器	3
血管診療技師		1

最後に、医療連携の先生方に COVID-19 遺伝子 RNA 検査に関しましても協力をしていきたいと考えております。これからもどうぞご指導のほど、宜しくお願いをいたします。

当院での感染管理認定看護師の取り組み

看護師長　富谷 康子

当院には２名の感染管理認定看護師が在籍しています。

感染管理活動の目的は、「患者さん、ご家族および来訪者、職員など病院に関わる全ての人を感染から守ること」です。病院には、病気で抵抗力が弱くなり感染しやすくなっている患者さんや、感染症を発症した患者さんが入院しています。入院した方が新たな感染症にかからないように、病院内の感染発生状況を把握し、拡大を防ぐための対策を行う必要があります。また、病院に働く職員自身も感染しないような環境作りが必要となります。

現在、新型コロナウイルス感染症の終息が見込めない中、各医療機関や施設では、多くの感染管理認定看護師の方が奮闘していると思います。

当院における新型コロナウイルス感染症対策は、２月早期より院長をはじめとする病院幹部、ICT で新型コロナウイルス対策本部を立ち上げました。毎朝会議を行い、対応について協議し、対策の決定と情報共有を行っています。管理者と協働することで決議が迅速に行われ、多職種への伝達もスムーズに行えます。現在は、入院患者さん全員の新型コロナウイルス RNA 検査のスクリーニングと問診を行い、安全・安心な入院生活が送れるように対策を実施しています。私は皆様に、ご指導ご協力いただきながら当院における感染対策を進めているところです。

さて、感染管理を取りまく社会情勢として、AMR 対策が国際社会の大きな課題となり、診療報酬にも抗菌薬適正使用支援（AST）チーム体制を評価する加算が取り入れられました。一方では、医療機能分化や地域連携構想が推進される中、医療・介護を必要とする方々が複数の医療機関、在宅・介護施設を行き来するため、薬剤耐性菌をはじめ、感染症が広がりやすい状況であることが危惧されています。また、在留外国人や訪日外国人への医療サービス提供体制充実を図るという国の施策が進められ、海外から感染症を持ち込むリスクも高まっています。こうした背景の中で、感染管理認定看護師の役割も多様化し、自施設だけではなく地域、社会全体で役割を発揮することが求められています。

■こんな活動をしています

1．手洗い強化期間の活動
　毎年 10 月から手洗い強化期間を設け、全職員が正しい手指衛生が実施できるよう指導を行っています。

2．耐性菌発生状況の確認
3．サーベイランス（SSI・CLA-BSI、尿道留置カテーテル関連尿路感染症）の集計、分析、評価、報告
4．院内感染予防研修会の企画、実施
5．感染対策の指導
6．抗菌薬適正使用支援（AST）活動
7．感染防止対策加算　合同カンファレンス（加算２施設と開催）　４回／年
8．感染防止地域連携加算　相互評価　２回／年
9．針刺し切創、皮膚・粘膜曝露の集計、分析、評価、報告

■ ICT（感染対策）チームの紹介

インフェクションコントロールドクター（ICD）：呼吸器内科部長　大河内医師
感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）：津端検査技師、室谷検査技師、微生物検査室：原田検査技師
抗菌化学療法認定薬剤師：坂倉薬剤師、薬剤部：吉井薬剤師
感染管理認定看護師（CNIC）：富谷、若松

ICT メンバーを中心に他職種と協力・相談していきながら、より良い感染対策を実行しています。

■最後に

患者さんとご家族が安心して入院や通院ができるように、院内全体で感染防止対策に取り組んでいます。また地域の基幹病院として周辺施設との連携を大切にし、地域全体で感染対策の向上を図りたいと考えています。

リウマチ膠原病外来のご案内と、新任のご挨拶

リウマチ膠原病科医師　三森 明夫

連携医療施設の皆様へ、リウマチ膠原病 “ 外来日程 ” のお知らせと、新任ご挨拶を申し上げます。JCHO 東京山手メディカルセンターは、新宿・新大久保を中心に都内の総合的な専門診療を担っております。私の専門であるリウマチ膠原病についても、地域連携を一層充実させる所存です。

2020 年 11 月からリウマチ膠原病（表でリ膠と略）の外来枠が、従来の２コマから下記４コマへ拡充されました。

診察日	時間帯	担当医	備考
火	午前 /	三森明夫	リ膠＋一般内科初診
水	午前 /	小林晶子	リ膠
木	午前 /	三森明夫	リ膠＋一般内科初診
金	/ 午後	落合萌子	リ膠：要予約

当院のリウマチ膠原病科は、まだ独自の病床を持ちませんが、膠原病の主病変は概ね特異臓器に生じるので、該当する各内科で入院治療がなされ、私共リウマチ医が外来管理します。関節リウマチは、メソトレキセートと併用するサイトカイン遮断薬または T 細胞刺激阻害や JAK 阻害などの分子標的治療で、非常に治療成績がよくなっています。

当科へのご紹介について：リウマチ膠原病の要治療例はむろんのこと、疑い例、病名不明の炎症例も含め、お気軽にご紹介ください。表記の “ 火・木 ” 外来は、リウマチ膠原病だけでなく一般内科の初診外来も兼ねています。

診療上の相談をご希望の方は、メール窓口をご利用ください（当院ホームページ → “ 診療科のご案内 ” → “ リウマチ膠原病科 ” のページに記した URL からメール送信できます）。

自己紹介

私は東大病院内科、東芝中央病院内科、日本医大救命救急センターで研修した後、自治医大講師、埼玉医大准教授として膠原病の臨床に専念しました。その後、国立国際医療研究センターで膠原病科長を勤め（教育部長、臨床研究担当副院長など兼任）2016 年に定年退職しましたが、若手医師達と共に病棟診療の現役を続けたいという希望が、岩手県立中央病院で叶い、2018 年まで腎臓リウマチ科（参与）で診療しました。単身赴任の不利益を上回る有意義な臨床知見を得て、膠原病診療の拙著改訂版（下記）も実現しました。地域医療とは “ 医療需給の地域特性に応じた診療状況 ” を意味すると思います。岩手ではリウマチの関節治療の大部分を整形外科クリニックがカバーし、県立中央病院の私の外来にはリウマチ肺の紹介が（都内での一般比率以上に）集積したことが特徴的でした。今回私が外来診療の場をいただいた東京山手病院には奇しくも、間質性肺炎やリウマチ肺診療で有名な呼吸器内科が存在します。前述のように当院リウマチ膠原病科は入院治療を各科の協力に依存しており、今回は外来拡充のお知らせに留まりますが、今後さらに積極的な医療連携の体制を整える所存です。

[著書抜粋]
膠原病診療ノート４版（単著、日本医事新報社 2019）、国立国際医療研究センター内科ハンドブック（編著、日本医事新報社 2011）

東京山手メディカルセンター　外来担当表

※医師の指定がある場合は、お電話にて休診をご確認ください。　※診療の受付時間は8:30～11:00です。
※内科初診担当は交替制です。　※「*」は女性です。

2021年2月

◆受付時間を過ぎる場合や緊急の場合は総合医療相談室にお問い合わせください。

総合医療相談室（業務時間 午前8:30～午後5:00）　直通TEL:03-3364-0366　直通FAX:03-3365-5951

科別				月	火	水	木	金
内科 2100	午前	内科1		鯨岡 裕史(循)	中島 淳(循)	薄井 宙男(循)	薄井 宙男(循)	瀬戸口 実玲(循)
				吉川 俊治(循)	村上 輔(循)	渡部 真吾(循)	吉川 俊治(循)	鈴木 篤(循)
				佐野 弘二(消)	三浦 英明(肝)	*柳 富子(血)	三浦 英明(肝)	髙添 正和(炎腸疾)
				長門 直(呼)	*米野 由希子(血)	茂田/大河内(呼)隔週	吉村 直樹(炎腸疾)	大河内 康実(呼)
				吉村 直樹(炎腸疾)	園田 光(炎腸疾)	深田 雅之(炎腸疾)	髙添 正和(炎腸疾)	吉村 直樹(炎腸疾)
			(初診)交替制	交替制	三森 明夫(リ・膠)	交替制	三森 明夫(リ・膠)	消化器内科若手医師
				徳田 均(呼)予約制	笠井 昭吾(呼)	*小林晶子(リ・膠)=予約制	石森 太郎(呼)	徳田 均(呼)予約制
				岡野 荘(炎腸疾)	廣瀬 雄紀(消)	齋藤 聡(消)	宮田 直輝(消)	*酒匂 美奈子(炎腸疾)
		内科2		瀬水 祐樹(糖)	*堀江 有実子(糖)	*堀江 有実子(糖)	*中西 直子(糖)	*後藤 麻貴(糖)
				山下 滋雄(糖)	*伊上 優子(糖)	*後藤 佐智代(糖)	*堀越 桃子(糖)	山下 滋雄(糖)
				野本 宏(メンタル)	*稲岡 万喜子(メンタル)	吉本 宏(腎)	*山内 美紀子(メンタル)	*古寺 理恵(腎)
総合診療科・救急科		午前(9～13時)		笠井 昭吾	川島 秀明	笠井 昭吾	笠井 昭吾	川島 秀明
		午後(13～17時)		大道寺 洋顕	*岩田 裕子	野口(第1.2.3) 笠井(第4.5)	*岩田 裕子	結城 将明
大腸・肛門外科 2160	午前 (予約制)			*古川 聡美	山名 哲郎	*西尾 梨沙	岡本 欣也	岡田 大介
				岡本 欣也	*西尾 梨沙	岡田 大介	山名 哲郎	*古川 聡美
				藤本 崇司	奇数週　茂木 偶数週　*村瀬	中田 拓也	*山口 恵美	田邊 太郎
外科 2120	午前	消化器外科 (上部消化管・肝胆膵)		日下 浩二 久保田 啓介	伊藤 謙太郎 柴崎 正幸	伊地知 正賢	森戸 正顕	柴崎 正幸
		乳腺外科			柴崎 正幸		橋本 政典	
		形成外科		*藤田 純美		*藤田 純美	*富岡 容子	*藤田 純美
		呼吸器外科		水谷 栄基		森田 理一郎	森田 理一郎	水谷 栄基
		心臓血管外科			惠木 康壮	高澤 賢次		
	午後 ※印は予約制			乳腺外科(～14:00) 橋本 政典		※あし外来(第2・4週) 惠木 康壮	※ソケイヘルニア外来 伊地知 正賢	※乳腺外来 柴崎 正幸
産婦人科 2130	午前 婦人科		予約	*北 麻里子	*野村 香央里	*石澤 千尋	*牧井 千波	橋本 耕一
				*竹原 也恵		小林 浩一	*手塚 真紀	*児島 真千子
			予約外	*児島 真千子	*牧井 千波	*竹原 也恵	交代制	交替制
	午前産科(予約)			小林・*石澤／*牧井	園田／*大村	*児島／*伊藤	*大村／交代制	*佐原／交代制
	午後産科(予約)				*大村 恵理香		*大村 恵理香	
整形外科 2180	午前	整形外科		交替制	田代 俊之	飯島 卓夫	飯島 卓夫	飯島 卓夫
					松尾 康史	*大江美萌子(第1・3・5)	田中 哲平	田代 俊之
					*大江 美萌子	田中哲平(第2・4週)		*前田 千尋
		脊椎脊髄外科		平林 茂	休診	休診	伜田 敏且	伜田 敏且 初診9:30迄
				偶数週 伜田 敏且				
	午後 完全予約制						梅香路 英正 (骨粗鬆症)	田代 俊之(膝) 飯島 卓夫(腫瘍)
脳神経外科 2140	午前	脳神経外科		紹介救急(交替制)	武田 泰明(予約/連携) ※診察開始は10:30～	高草木 宏之(予約/救急)	武田 泰明(予約/連携)	交代制
					大野 博康(初診/救急)	大野 博康(初診/連携)	神保 洋之(初診/救急)	予備外来
小児科 2110	午前		1診	山西 愼吾	山西 愼吾	早川 潤	山西 愼吾	山西 愼吾
			2診	*赤尾 見春	*上田 美希	*赤尾 見春	*赤尾 見春	*赤尾 見春
			3診	*田嶋 華子	*峯 牧子	*上田 美希	*松本 多絵	上砂 光裕
	午後予約外来			山西　*赤尾　*上田	山西　*上田　*峯	早川　*赤尾　*上田	山西　*赤尾　*上田	山西　*赤尾　*高木
眼科 2150	午前			地場 達也	地場 達也	地場 達也	地場 達也	地場 達也
				*日下部 茉莉	*日下部 茉莉	*日下部 茉莉	藤野 雄次郎	*日下部 茉莉
泌尿器 2170	午前			大村 章太	加藤 司顯	加藤 司顯	休診	加藤/大村
耳鼻咽喉科 2225	午前			宮野 一樹	宮野 一樹	宮野 一樹	宮野 一樹	宮野 一樹
				*小村 さやか	松田 信作	*水上 藍子	松田 信作	松田 信作
	午後(火)のみ(13:30～14:30)				松田 信作			
皮膚科 2220	午前			鳥居 秀嗣	宮田 龍臣	鳥居 秀嗣	鳥居 秀嗣	鳥居 秀嗣
				*岩瀬 麻衣子	*岩瀬 麻衣子	*岩瀬 麻衣子	*岩瀬 麻衣子	*岩瀬 麻衣子
	午後(1:30～3:00)				鳥居 秀嗣	*岩瀬 麻衣子		
歯科 2210	午前			中野 雅昭	中野 雅昭	中野 雅昭	中野 雅昭	中野 雅昭
				熊谷 順也	熊谷 順也	熊谷 順也	熊谷 順也	熊谷 順也

東京山手（やまて）メディカルセンター

〒169-0073 新宿区百人町3-22-1

総合医療相談室　☎　03-3364-0366
FAX 03-3365-5951
http://yamate.jcho.go.jp/

この冊子は環境にやさしい有害廃液の出ないクリーン印刷で作成しています